

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107827		
法人名	医療法人 中山医院		
事業所名	グループホーム四季の里		
所在地	岡山市北区西山内101-2		
自己評価作成日	平成28年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した医療機関が母体で、日ごろから顔なじみの関係ができています。安心と信頼を大切に、家庭的な雰囲気の中で利用者が穏やかな日々を過ごせる様な援助を目指し、時間に束縛されることなく柔軟な対応ができるよう努めている。
利用者本人、家族の意思を尊重しつつ、スタッフ全員で考え、工夫しながら日々のケアに取り組んでいる。
又、ターミナルケアについて学ぶ機会を設けており、知識と経験を積み、多くのスタッフが立ち会える体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の中山医院自体が地域の信頼の下、グループホームを運営しています。地域の協力を得ながら自然環境の豊かな中(バードウォッチングや畑作業をする)で入居者は生活しています。代表者が診察の合間にグループホームを訪ね、入居者の様子だけでなく職員の様子も窺いながら気さくに声掛けし和やかな雰囲気が感じられます。また、職員の誰もが入居者・入居者家族と信頼関係が築けるよう研修や報告・連絡・相談を徹底して、入居者の安全・安心につながるよう努めている様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	四季の里全体の理念とは別にグループホーム独自の理念を考え、見やすい場所に掲げ全員が共有し、日ごろから意識づけ、実践出来るようにしている	日々の支援(言葉掛け・態度・記録など)を振り返る事ができるように、理念を見やすいところに掲げ、具体的なケアについて意識統一に努め実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、理、美容院の利用、地域のサロンや夏祭りへの参加、清掃活動、秋祭り(四季の里祭り)などを通して日常的に地域の一員として交流している。地域の婦人会のボランティア活動にも協力して頂いている	事業所が地域と交流することによって、認知症の人の理解や接し方だけでなく、地域にある公共施設の設備や設置(洋式トイレやスロープなど)の使い勝手の相談を受けるなど地域資源としての役割を担うようになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方への理解、情報をお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的に行っており、施設の取り組み、状況等の報告を行っている。地域からは行事の情報等、頂いている。メンバーから率直な意見をもらい、サービス向上に活かしている	地域代表の参加もあり、地域に密着したサービスに努め、事業所からの報告だけにとどまらず、参加メンバーから質問・意見を受け、双方向的な会議となるよう取り組んでいます。	運営推進会議の意義を踏まえ、入居者・家族・職員とより多くの人が気軽に参加して、様々な意見交換の場となりサービスの向上に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。その際地域の情報を聞き、現場の状況等報告している	運営推進会議を通じて実情やサービス状況を報告し、介護保険業務だけでなく生活保護事例に関しても担当者や相談員などの窓口になってもらっており協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で、何が身体拘束にあたるのかを具体的に学び、ユニット会議で話し合いをしている。入口の扉の鍵もかけていない	家族などから安全のため拘束の依頼などある場合も、拘束をせずに抑圧感のない暮らしの支援ができるよう事業所の工夫や取り組み方針を示し、家族などに納得してもらえるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に、勉強会で学び、虐待防止の徹底に努め、細かい事でも常に注意を払い、スタッフ間の報告・連絡・相談を徹底し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回勉強会を行い制度について学ぶ機会を設けている。現時点では活用している利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書をお渡しし、予め内容を確認していただいている。その上で契約時に不安・疑問点を伺い、理解・納得出来る説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、利用者の日々の様子などを伝え、家族からの意見や要望を聞かせて頂く様に努めている	事業所主催のお祭り時に家族の参加・協力もあり、また、面会時お茶を出すときなど家族とのコミュニケーションを大切にしながら運営に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議や懇親会を行い代表者と職員の意見交換しやすい関係が築けている	代表者である医師が入居者や職員の様子を見に事業所に訪れる姿が自然体で、職員間とのコミュニケーションを普段から大切にしている様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。又、リフレッシュ休暇、希望休も有意義にとってもらえる様に柔軟にシフトを作成している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での勉強会は毎月行っている。又、施設外研修を年間で計画し全員が参加出来るようにしている。計画外の研修の情報も積極的に共有し希望者に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所に来た広告や月刊誌を見たり、インターネットで情報を集めている。研修会に参加し、交流と情報交換にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には必ず本人に心身の状態・思いに向き合いスタッフ全員で内容を共有した上で、本人に受け入れられる様な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時にはキーパーソンを中心に家族等の不安・要望等細かい事でも耳を傾け家族関係等を理解するように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつの家族という雰囲気大切に一人一人のスタッフが入居者と過ごさせてもらっている。作業、調理、掃除など強要せず本人の意向に添って一緒に行う様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の少ない家族へもお便りや、時には電話などでご本人の様子をお伝えしている。疎遠にならない様に面会依頼も行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物、理容院などの利用など、地域の馴染みの関わりを大切にしている。又、知り合いの方が来られた際には次回面会に来やすい雰囲気づくり、対応に努めている	家族や知り合いが隣の中山医院受診終了後、入居者を訪ねてくれることもあり、なじみの関係が途切れないよう訪問しやすい環境作りに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ、食事時間などスタッフも一緒に会話を待つ様に努め、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。又、食事する際の座席も工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても何かあれば相談してもらう様本人・家族に伝えている。転居の場合は本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を転居先のスタッフに伝える様にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから真意を組みとったり、それとなく確認するようにしている。情報はスタッフ全員で共有する様に努めている	入居時や日々の生活の支援を通じてアセスメント、プラン、モニタリングを的確に行うことでその人らしい暮らし方の希望・意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中からその人の生活歴や暮らし方をくみ取る様に努めている。家族や面会に来られた知人の方からも聞く様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を細かく観察し、個人記録に記入、申し送りノートを活用し状態の把握が出来る様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを行い利用者の情報を共有、理解し援助内容等話し合い、職員のチームケア確認を互いに図り、介護計画に反映し、作成している	言葉掛けによる情報収集や医療面での体調・精神面の情報等、小さな変化も見逃さないよう、より良い介護計画作成に取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく個別記録に記入し、常にスタッフが把握し、問題点を話し合う様に努めている。申し送りノートを活用し日常的に問題の共有、改善に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める様に努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院、スーパー等馴染みのある資源を利用し、暮らしを楽しめるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人と家族の同意の上、事業所の母体の中山医院をかかりつけ医にしている。気がかりな事があると気軽に相談できる体制が整っている	代表者である医師が普段から入居者の様子を窺いながら巡回しており、職員も相談しやすく、専門医(歯科など)受診は家族の協力を得ながら適切な医療を受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りで夜間の状態の報告を行っている。又、特変時には休日深夜問わず24時間その都度対応してもらえるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と相談しながら医療機関に対して本人に関する情報の提供を行っている。退院時はご家族、医療機関から状態を伝えてもらいスムーズに行える様に計画を立てている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全体が申し送りノート・介護日誌・記録を活かし、看護師・スタッフが協力し合って支援に取り組んでいる。又、契約時家族へ看取りの指針について説明させて頂き終末期に入る際、再度指針を元に家族と話し合う機会を設けている。	母体の中山医院との連携で入居者の容態が変わるたびに、今後起こりうる可能性について家族に説明し、安心して納得のできる看取りができるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的計画を立て、年2回(内1回は夜間想定)定期的に地域の消防団と連携し避難訓練を実施している。水害時のマニュアルも作成し周知している	水害時の避難場所の懸幡神社まで入居者と一緒に避難訓練を実施。山の上まで30分掛かることも確認して、発電機や備蓄の準備もするなど地域との協力体制を築くよう努めています。	これからも地域住民の協力を得ながら、地域と一緒に災害対策をしていける事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた声掛けや対応を心がけている。気になる事があれば会議の際、言葉遣いや声掛けについて話し合い、改善に努めている	集団行動が苦手な人居る方もあり、周りの気配を感じてもらおう意味で、ドアを開放して一人ひとりの人格を尊重する様工夫している様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望を表しやすい雰囲気作りに努め、本人の能力にあった支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしないように心がけている。その日、その時の体調や気持ちに配慮し寄り添う支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は見守りや支援が必要な時に手伝う様に努めている。行きつけの美容室がある方は継続的に通って頂いている。そうでない方も出張の理髪店に個人の希望をくみ取ってもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者も同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。準備や片付けも本人の意向をくみ取り積極的に行ってもらっている。	普段は管理栄養士が栄養管理した献立で食べているが、年数回個々のリクエストに応じた献立で食事を楽しんでいます。個々の嚥下に応じてソフト食や刻み食で無理なく食事が出来る様に支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と1日の摂取量に気を配りカロリー不足、栄養の偏りが無い様にしている。水分摂取しにくい方にはタイミングや好み等工夫して摂取してもらっている。必要に応じて栄養補助食品を使うなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に口腔ケアを促し、介助が必要な方は手伝わせてもらい、清潔保持に努めている。夜間は毎晩義歯洗浄剤を使用している。歯ブラシ、コップは週1回消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をつけ、個々の排泄リズムを把握し極カトイレで排泄出来る様に支援している。声掛けや、誘導により、自立に向けた支援を行うよう取り組んでいる	本人の意向や体調に配慮しながら、深夜でもトイレでの排泄を大切にしている方には支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物・乳製品を毎日摂取して頂き、水分補給もこまめにしてもらうなど、個々に合わせて工夫している。散歩、体操等の運動も無理ない範囲で行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否する入居者には声掛けを工夫し無理強いない支援を心がけている。入浴剤や時期によってゆず湯にするなど入浴を楽しめる工夫を行っている。個人の意思を尊重し、介助スタッフの性別にも配慮している	体調を考慮した上、入居者の羞恥心に配慮し入浴を楽しめる様に入居者と職員が一对一でリラックスし、会話をしながら入浴を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整、転落防止など安心できる快適な環境作り、消灯時間は本人の希望を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が日々確認し、変更があった時などは、申し送りノートを活用している。誤薬等起こらない様に徹底している。症状に変化が表れた場合医療への報告、相談を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえようようお願い出来る様な仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の暮らしの中で入居者の様子を見ながら散歩や外への洗濯物干しなど生活に添った外出支援に努めている。又、季節に合わせたドライブの提案、ご本人希望の場所への外出にも積極的に取り組んでいる	自然に囲まれた中で四季折々の移り変わりが身近に感じられ戸外へ出る機会を見つけ支援しています。同グループ内の職員の協力を得ながら、パートウォッチングや畑の見回りなど外気浴が出来る支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は預かっている。用途に関する相談はその都度行っている。管理簿を付け月1回ご家族に確認してもらっている。本人で所持している方も少数いる。希望に応じて一緒に買い物へ行き本人から支払ってもらうこともある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は、一緒に郵便局へ行くこともある。電話希望時には時間帯にもよるが支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ全員で工夫・配慮に取り組んでいる。季節の花や、飾り物など。居室やトイレに張り紙標識を作るなどの工夫も行っている	個人の家を大きくしたような居間でゆったりテレビを見る人もあり、食卓テーブルで台所仕事を手伝う人もあり居心地よく過ごせる様な空間づくりがされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで談話して頂いたり、テーブル席で新聞を読んだり、手作業をして頂いたりと思い思いに過ごして頂いている。一人で座りたい方用のソファも用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物を持ってきて頂く様に家族や本人にお願いし、安全に居心地良く生活して頂けるようにしている。また、個人の作品(塗り絵、クラフト)や家族の写真など飾ったりしている	一人で過ごす居室にはベッド・エアコン・クロゼット・カーテンが据えられているが、本人の思いや安全に配慮し、思い思いに自立した時間が過ごせる様工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境担当を配置、居室担当制による日常生活点検、及び月に1回会議による情報交換を行い個々に対応した生活空間作りに努めている		